

令和6年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：根室地区
- 2 事例報告学校名：標津町立川北小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 藤 吉 桂 子
- 4 キーワード：地域の教育資源を活用した自然体験活動

1 はじめに

標津町は北海道の最東端、根室支庁管内の中心部に位置している。本町を中心にちょうど両腕を出すように、左手に日本最後の秘境といわれる知床半島が、右手にはノサップ岬を先端とする根室半島が延びている。正面はオホーツク海に面し、洋上わずか24km先には近くて遠い島である国後島が、その大きな姿を見せている。

本校は、標津町の川北地区にある全校児童87名の小規模校である。各学年で様々な地域に根ざした学習を行っている。ここでは、豊かな自然に囲まれた地域環境を生かした学び「放課後ちいきあそび」と子どもたちの学びを支えている地域コーディネーターの実践を紹介する。

2 地域の環境、人材を生かした「放課後ちいきあそび」の取組

標津町は古くからサケを中心とする漁業により開けた町で、現在でも豊かな海と大地を生かした「生産の町」として発展している。基幹産業と住民生活を支える森林はかけがえのない財産である。多くのサケ・マス増殖河川や耕地を守り、住民生活に潤いとやすらぎをもたらしている「森の豊かさ」の中で体験を通して学び、ふるさとへの誇りを育むため「放課後ちいきあそび」に取り組んでいる。



(1) 学校と地域をつなぐ「地域コーディネーター」

本校では、学校と地域をつなぐ役割として「地域コーディネーター」を配置している。「地域コーディネーター」は、学校教育活動（教育課程内支援・教育課程外支援）における教育プログラム等の実践に当たり、学校と教育支援人材、あるいは教育支援人材間の連絡調整などを行い、実質的な運営を担っている。

(2) 放課後ちいきあそびの取組

本校では、地域コーディネーターが中心となり「放課後ちいきあそび」を行っている。

放課後ちいき遊びは、地域の自然や人と関わり「あそびと原体験」を通して、子どもたちに必要な「成長の土台」を育むことを目的として年間を通じて実施している。当初は放課後の時間を活用し「放課後ちいきあそび」という名称で取り組んできたが、現在はクラブ活動として教育課程内で実施している。

放課後「ちいきあそび」は・・・



⇒ なかよくなろう。遊んでみよう。体験してみよう！
そんな時間です。

(3) 活動の実際

① オリエンテーション

はじめに、小学4～6年生を対象に「放課後ちいきあそび」のオリエンテーションを行っている。地域コーディネーターから川北の自然の中で、地域の人と関わり合いながら活動していくことや、何を大事に活動するかを共有している。子どもたちは、これから始まる活動に期待を寄せるとともに、どのような活動（あそび）をやりたいのか、地域コーディネーターと話し合い、活動を計画している。

② 地域の自然の豊かさを知る活動

この活動は、子どもたちの「やってみたい!」という願いをととても大切に、体験活動を計画している一方、野外活動における安全面の配慮は教職員も連携して活動を支えている。

主な活動場所は、校舎近辺にある自然公園をフィールドとしている。自然公園は清らかな小川、豊かな森林に囲まれていて夏でも涼しい環境である。その環境で魚をつかまえ、虫をとり、木登りをする。活動を大人が促すことはなく、子どもたちは自然と話し合い、友達と関わりを深め、活動をしている。

③ 地域の人とつなが

羊の毛刈り活動やアロマオイル作りなど、地域の方々を招いた活動も行っている。アロマオイルづくりでは、学校周辺に生息しているマツの葉や枝を拾い、蒸留してアロマオイルを作っている。また、アロマオイルを製造販売している方から森の恵みや森に関わる仕事の魅力について話をしてもらうことにより、身近な自然と仕事の関係についても考える機会になっている。

さらに、完成したアロマオイルを手にとり身近にある植物の「香り」に驚くとともに、「川北をイメージしたオリジナルアロマオイルをつくってみたい!」「どうしたら仕事にできますか?」と熱心に講師に質問する姿が見られた。

3 終わりに

子どもたちにとって、身近にある自然の素晴らしさや地域のよさに気付くことができるよう、「あそび」というキーワードで活動を展開してきた。単なる体験だけではなく、地域コーディネーターを含め地域の方々がこの地域とどのように向き合っているのか、その思いや願いに気付く考える学びでありたい。

今後も、地域の方々とつながり、地域資源を活用した教育活動の充実に向けて取り組んでいきたい。

